

「保育園に持って行きたいな！」

～そんな子どもの気持ちを叶える取り組みの

ガイドブック～



玩具購入時の注意 別添リーフレット「安全なおもちゃの選び方」をご参照下さい。

3歳以上児共通ルール

- ① 持ってくるものは、保護者の方も把握をしてください。
- ② 友達の玩具を持ち帰ることはしない。(ただし、折り紙、メモ帳、シールなどは基本的には子ども同士のやり取りに任せています)
- ③ 持ってきた玩具は毎日持ち帰る。(迎えに来た時に探さなくて良いように、園でも工夫します)

その他 どんぐり～かりん組はクラス毎に、子どもたちと一緒にルールを決めます。こちらも一緒にご確認下さい。

あゆのこ保育園(R3 年度改訂)

「保育園にもっていききたいな！」そんな子どもの気持ちを叶えること

園長 福田 奈美恵

あゆのこ保育園は「育てたい子どもの姿」の一つに「まわりとの良い関係を作り、適応力をはぐくむ」を挙げています。その力をつけていくことは、きっと子ども達の幸せな障害を約束することだと思うからです。自分の考えを大切にしながら良い人間関係を形成する能力が高ければ、きっと楽しい、充実した人生を過ごすことができるでしょう。

そのような力をつけていくために私たちが様々な場面での子どものかかわり合いをとらえて、そのつど言葉をかけ、教えていくことが重要と思っています。

例えば、お家から好きなおもちゃを一つ持ってくるとしたらどうでしょうか？

友達の持ってきたおもちゃで遊びたいでしょう。そのとき、子どもは貸してもらうにはどのように友達に頼むかを考えます。このことはとても大切なことなのです。

貸してあげる側はどうでしょうか？貸してあげたくないかもしれません。貸してあげて、なくなったり、壊されたりしたらどうしよう、と不安かもしれません。でも断ったら自分も貸してもらえないかもしれない、と思うでしょう。「壊さないでね」と言ってそっと貸してあげましょう。「ありがとう」と言われて嬉しいかもしれません。でも、心配していたように壊れてしまうこともあるでしょう。「ごめんね」といわれて涙が出るかもしれません。「許せない」「でも仕方がない」「お母さんがなんて言うだろうか…」いろいろな想いを持って段々自分の気持ちを収めていきます。そして「いいよ」と言ってあげることができる頃には、様々な気持ちをコントロールして大人になっていくのです。

貸した子どもも、借りた子どもも大きな学習をします。この学習は保育園の玩具だったらその何分の一の学習効果しかありません。なぜなら「自分のもの」ではないからです。

また、きっと素晴らしいこともあります。何もかも園で決めた一日のスケジュールとは別に、子ども達が主体的で、受け身ではないスケジュールを一つ持って登園することです。おもちゃ箱の前に立って「今日は何を持って行こうかな…」「これを持って行ってSちゃんと遊ぼう」などと考えることです。それは子ども達にとって心楽しいことです。でも、保護者の方々には色々な悩みが想定されるかもしれません。持って行ったものがなくなったり、子ども達同士で勝手に交換したり、お友達のおもちゃが欲しくてねだられたり…。

今までの実践を振り返り、取り組みのガイドブックを作成しました。お子さんの発達の姿に沿ったねらいや、保育士が配慮していること、そして保護者の方にご協力頂きたい事などをまとめましたので、ご一読いただければと思います。

この取り組みのねらいは、園だけの実践で実現できるものではありません。ご家庭と一緒に子ども達に向き合い、見守り、伝えていくことによって初めて効果のあるものとなります。ご意見がありましたら、どうぞ遠慮なくお話しください。そして、人としての基礎ができるこの時期に、子ども達のために二人三脚で力を合わせていければ幸いです。ご理解とご協力を、よろしくお願い致します。

3 歳未満児クラス

持参した玩具を介しての子ども同士のやり取りは期待できません。(貸し借り自体が難しい為) 特に持ちたがらなければ、持参せずにいらして下さい。

さくらんぼ組(0.1 歳児)

持参した場合に予想される姿 ~心のよりどころ~

初めての保育園。安心できるご家庭から離れて過ごす時間のなかで、時には不安になったり寂しくなってしまう事もあります。そんな時、ご家庭から持参したガーゼやぬいぐるみなどが心のよりどころになることがあります。慣れ親しんだお家の匂い、感触は子どもを安心させます。ただ、あまり魅力的な物だと、まわりの子どもが悪気なく手を伸ばす…ということもあります。

物への愛着がそれほど強くないこの年齢。登園したばかりの時には握りしめていたとしても、安心すれば手放すことがほとんどです。保育士はその頃合いを見てそっと回収し、通園カバンにしまえます。その後も子どもの求めに応じてすぐに取り出すようにしています。

持参する場合…

- ・タオルやぬいぐるみ、お家の匂いのするお洋服、タオルケットなどが適しています。

いちご組(1.2 歳児)

持参した場合に予想される姿 ~安心感と周囲への興味~

1 歳を過ぎると物への愛着も強くなってきます。登園を渋った時、家のお気に入りの玩具は登園のための大きなモチベーションになることがあります。ただ、見慣れない玩具は他のお子さんにとっても魅力的なものです。自分のものと人の物と言う区別に少しずつ気付くようになってきますが、まだ本当の意味での貸し借りの経験は難しい時期です。持参した物の取り合いで逆に不安定になってしまう事もあります。

登園してしばらくして、園の玩具に興味に向いた頃、保育士がそっと回収して通園カバンにしまうようにしています。思い出して欲しかった時には、再び出すようにしています。2 歳を越えた頃からは無理なく、「大事な玩具だから、おやつの時になったらカバンにしまいにしようか？」と子どもが納得してカバンにしまえるようにも促しています。

持参する場合…

- ・大きさ(誤飲チェッカー参照)、破損の有無、誤飲の恐れがないかなどの配慮をお願い致します。
- ・電池で動く玩具はできればお控え下さい。(他児の興味を引きやすい、電池落下の恐れ)

3 歳未満児クラス

持参した玩具を介しての子ども同士のやり取りは期待できません。(貸し借り自体が難しい為) 特に持ちたがらなければ、持参せずにいらして下さい。

りんご組(2.3歳児)

持参した場合に予想される姿 ～心のよりどころから、一緒に遊ぼうへの移行期～

友達への興味が高まり、関わる頻度も多くなる年齢です。「〇〇ちゃんと遊ぶ!」という目的をもった持参に変化してきます。しかし実際にはまだ友達同士でうまく遊べることは少なく、保育士等の大人と一緒に遊ぶ段階です。特に年度前半は貸し借りのルールが理解できずに子どもの情緒がかえって不安定になることもあります。年度後半になると、徐々に友達と分け合ったり、順番に使ったりするなど、決まりを守ることを覚え始めますが、持参した愛着のある玩具だと難しいこともあります。また月齢の差も大きいクラスですので、高月齢児はやり取りができて、低月齢児には難しい、という場合もあります。

言葉の発達に伴い、大人が言い聞かせることが有効になってきます。保育士は「大事な玩具が、壊れてしまうと悲しいから、9時のおやつの時間になったらしまいにいこうね」と伝え、この時間になったらカバンにしまいにいくことをルーティンにすると、嫌がらずにしまえることがほとんどです。(嫌がる時に、無理にしまわせることはしません)

ご家庭にある様々なもの等持って行きたがる場合もあるかと思えます。お困りの時はいつでもご相談頂き、そのお子さんに合わせた対応を一緒に考えていきたいと思えます。

持参する場合…・いちご組内容と同じ



どんぐり組(3.4 歳児)

この年齢における持参の取り組み

～〇〇ちゃんを使いたいな～

この年齢のお子さんでは、安心感や満足感のために何かを持参する気持ちもまだありますが、少しずつ友達との遊びに実際に使用し始めます。

相手との物の貸し借りは、初めはなかなかうまくできません。「自分のもの」という意識がお互いに強いからです。しかし、徐々に「〇〇ちゃんになら、貸せる」と変化してきます。安心できる友達に貸せるようになると、今度はもう少し広い範囲の友達にも貸せるようになってきます。こうした友達とのやり取りの積み重ねにより、貸す(または借りる)時のコミュニケーションの方法などを学習していきます。

友達との関わりが活発になってくる時期。貸し借りも活発に行われますが、うまくいくことばかりではありません。この年齢ではうまくいかないことも含め、たくさん経験を重ねていくことが大切です。保育士は相手の気持ちにも気付けるように話をしたりしながら、友達同士の関わりを援助していきます。また、うまく貸し借りができた場面を褒めながら、学びが深まるような関りをしていきます。

うまくいった事例

- ・「〇〇ちゃんと遊びたい」というイメージを持ち持参し、一緒に遊んでいる。それが園に来るモチベーションにもつながっている。
- ・園の玩具は「みんなのもの」、持参玩具は「〇〇ちゃんの大切な物」と、少しずつ区別ができてきている。大切なものを貸してもらったからこそ大切に使用しようとする姿も見られる。
- ・自分から友達に声をかけ辛いお子さんでも、持参玩具があることでお友達から声をかけてもらい、遊び始めるきっかけをつかめている。

うまくいかなかった事例

- ・借りた玩具が、フィギアの首など、折れやすい、壊れやすい物だった場合、扱い方が分からずに、悪気なく壊してしまうことがある。壊れやすいものでなくても、初めて借りたものなど使い方が分からず、壊してしまうことがある。
- ・貸してもらった玩具をさらに他の子に貸してしまうことで、関係が難しくなってしまっていることがある。
- ・同じ玩具を持ってきている子がいて、誰の物か分からなくなってしまうことがある。

みかん組(4.5 歳児)

この年齢における持参の取り組み

友達との関わりがさらに深まるこの年齢。生活の様々な場面で、周囲の友達と自己主張がぶつかり合い、折り合いをつける、という経験を繰り返していきます。特に持参した愛着のある玩具については、このような真剣なやり取りが多く見られます。こうした体験を積み重ねることで、相手の気持ちを思いやり、自分の気持ちを相手に伝えたり、上手に収めたりできるようになっていきます。自己を十分に発揮することと、他者と協調して生活していくという、人が生きていく上で大切なことを、お子さんはこの時期に学び始めるのです。

保育士はできるだけ子ども同士のやり取りを見守り、子ども達なりの解決や納得を認めていきます。とはいえ、まだ感情がコントロールできない場面もあります。援助が必要な時には、状況を言葉にして整理してあげたり、「どうすれば良い(良かった)かな?」「お友達はどんな気持ちかな?」と、子ども自身が考えたり、相手の気持ちに気付けたりするような声掛けをしていきます。また、問題が起きた時にはカリキュラムで取り上げて、クラス全体で考え、話し合うことも大切にしていきます。

うまくいった事例

- ・ 明日も一緒に遊びたいから、これを一緒に持ってこようね、と約束をしているような場面もある。それが保育園に来る楽しみの一つになっている。
- ・ 持参玩具だからこそやり取りが多く生まれ、そのようなやり取りを沢山経験することで、貸し借りのやり取りが上達している様子がある。
- ・ 大切な玩具だからこそ、「大事に使ってね」「じゃあ一緒に遊ぼう」など、自分の気持ちを相手に伝えようとする姿が見られる。

うまくいかなかった事例

- ・ 持参して遊ぶ具体的なイメージがあるからこそ、家に忘れてきてしまった時に泣いてしまう時がある。
- ・ 友達から貸してもらった玩具を、悪気なく壊してしまうことがある。
- ・ 「(持参玩具がないから)仲間に入らないで欲しい」などと言われるような場面が時々ある。

かりん組(5.6 歳児)

この年齢における持参の取り組み

友達とのやり取りをたくさん積み重ねてきたこの頃には、お子さんは自分の気持ちを分かりやすく表現したり、相手の気持ちを聞く力が育ってきます。そのことを通して、次第に相手を許したり認めたりする、社会生活に必要な基本的な力を身につけるようになってきます。思考力も芽生え、納得のいかないことに対して反発をしたり、言葉を使って調整するなどの力も芽生えます。したがって、自分たちで話し合いながら共通のルールを作って守ろうとしたりすることもできます。また、今までの経験から危険な遊び方などに自分たちで気付けるようになり、「それをするとどうなるか」と予測を立てて行動できるようになります。

自分たちの持参した物を使って楽しく過ごすために、毎日過ごす中で様々な課題が生じてきます。例えば「いくつ持ってきていいの？」など、クラスの子どもからの問題提起があります。そんな時、保育士は子ども達と話し合いながら一緒にルールを作っていきます。子ども達自身が決めたルールは、大人が一方的に決めたルールよりも守りやすいものです。また、決めたからにはそのルールを守っていく必要がある、ということも伝えていきます。物の貸し借りについて、経験を積み重ねたお子さんでもトラブルになる場合もあります。そのトラブルも「問題解決」の大切な機会ととらえ、お互いの気持ちが理解できるように、保育士が必要な言葉をかけながら援助していきます。

「小学校にも玩具を持参したがるのではないか？」というご心配を時々伺いますが、かりん組でもルールを決めて守る、ということを行っています。子ども1年の成長は著しいです。「小学校には玩具は持って行かない。」ということは、話せば十分に分かり、無理なく守れる年齢です。

うまくいった事例

- ・複数人同じ玩具を持ってきていて、それを何人かが借りたいという場面で、誰の物をどういう順番で貸すのか、自然と話し合いが生まれていた。またその中で自分の気持ちを伝え合う姿もあった。
- ・どんぐり組、みかん組と取り組みが進む上で、玩具についてのルールが定着している。何を持つてくるべきか自分なりに考える思考力が育まれているように感じる

うまくいかなかった事例

- ・パーツが多く分解できるもの(対象年齢ではないもの)を持参し、紛失したり壊れることがある。
- ・魅力的な玩具を持ってきた子どもが自分に有利なルールを決め、周囲の子どもから反発され、仲間に入れなくなることがある。
- ・カバンに入り切らない玩具が廊下に散らばっている。

<園とご家庭とで>

～3歳以上児クラス共通～

ご配慮下さい

- **先のとがったもの**や、**鼻・耳に入ってしまう様な小さなもの**など危険が予測されるものについては、ご家庭と園とで一緒に考えていけたら、と思っております。(鼻・耳などに物を詰める傾向の高い年齢です) また、食物のアレルギーを持つお子さんもいらっしゃいます。**食品の空き容器**などの持参もご配慮いただきたいと思っております。
- 電子ゲーム等、一人で遊びが完結してしまうような玩具については、取り組みのねらい(P1 参照)と異なるため、持参をお控え下さい。

園での出来事

年齢が低ければ低い程、園で起きたことを客観的視点で語ることは難しい為、保護者の方が心配になるような話があるかもしれません。(「〇〇ちゃんがいつも玩具を取る・いつも意地悪する」など) 気になることはどんなことでもその都度担任にお知らせください。丁寧に関わりの様子を見てお知らせするように致します。また、クラス内でのトラブルは、カリキュラムで取り上げて、皆で考えるなどして、人間関係の育ちに繋げてまいります。

ご家庭での関わり

お子さんに「貸してあげなさい」「貸してあげられないなら持って行かないよ」と言わないで下さい。無条件に貸してあげることが良い事ではなく、相手とのやり取りの中で葛藤し、自分で判断することが成長につながります。

「こんなことが困っています！」

～持参の取り組み ご家庭での対応例～

① 持参物に関する親子間のもめごと…

登園間際にもめごとが起きやすい…

適さない玩具を持参するといった時に朝から説得が大変！

1つの玩具から、2つ、3つと少しずつ持って行く玩具が増えてしまう…

朝持って行く玩具がないとグズグズする…

朝に持って行く玩具が変わったり、決められなかったりして時間がかかる…

⇒3歳という年齢を境に言葉は著しく発達していきます。言葉の発達に伴い、物事の予測がつき我慢ができるようになっていきます。この頃からは、これまでの「他の事で気を紛らわす」関わりから、「丁寧に伝えて説得する」関わりに移行していきたいものです。この対応は持参の玩具に限らず、お子さんとの関わり全般に関係してきます。

適した玩具を持って行く「習慣付け」ができるとスムーズかもしれません。例えば前日夜に、「明日はこの中から1つ玩具を持って行っていいよ。朝選ぼうね。」とあらかじめ適したものを候補に選んでおくなどはいかがでしょうか。子どもにとっては“いくつかの中から選べる”という喜びがあると、無数の中から選ぶのではなく、“あらかじめ数を限る”ことにより選びやすくなります。さらに前日夜に話すことで予測もつきます。もしも「この中から選ぶなんてヤダ！この玩具を持って行きたい！」と適さない玩具を持って行くと言ったら…「この玩具は持って行くと壊れちゃうかもしれないから、お家で遊ぶことにしよう。使えなくなったら嫌でしょう？」と持って行けない理由もしっかり分かりやすい言葉で伝えます。「習慣付け」をうまく工夫すると、朝から言い聞かせることも少なくなり、否定的な言葉を使わず褒める機会も増えて一石二鳥ですよ！

年齢が上がれば、「今日うまくいかなかったこと(朝玩具を決められないなど)」を、どうすれば次に繰り返さないか、親子で考えたりルールを決めたりすることも有効です。ルールは“守れなかった時に酷く叱ったり”“ペナルティを課す”ことはお勧めしません。できた時にたくさん褒めることが行動の定着には有効です。

友達と自分の違い

お店でお友達が持っていたものを欲しがってねだる。

玩具を選ぶとき(購入時)に、自分の欲しい物ではなく、友達から「すごい」と言われるようなものを選んでいくような気がする。

「何か保育園に持って行かなければいけない、友達と遊べない」という。

⇒これは家庭それぞれの考えを教える大切な機会です。「他のお友達が持っているけれど、自分は持っていない」という状況こそが大切な教材。「Aちゃんのお家はAちゃんのパパとママ。Bちゃんのお家はBちゃんのパパとママ。みんな違って、買うものも違うんだよ。お友達が持っていたとしても、お家で買わないものもあるんだよ。」「あなたが持っているもので、お友達が持っていないものもあるよ」とそれぞれの家庭が違うことを教えます。“違う”ことを受け止め、心の中で不満やストレスにならないようにしていくことが重要です。子どもが理解をしてくれたらたくさん褒めてあげてください。

持参玩具に限らず、この先の生涯の中で、自分と他者との違いに気づき、自信を無くすこともあると思います。幼少期から、こうした「人との違い」に触れ、「一人一人違っていても価値がある」ということを、繰り返しお子さんに話してあげてください。お子さん自身の魅力は、持参した玩具だけではないはずです。

持参する物は既製品に限りません。 休日に散歩に行った時に拾ったどんぐりで作ったネックレス、おじいちゃんおばあちゃんと折った折り紙、きょうだいで力を合わせて空き箱で作ったロボット…というように、思い出の詰まった物には既製品にない輝きがあります。 そういったものを持参された時には、保育の中で取り上げ、手作り品の魅力を子どもに伝えるなど、評価を高めるような工夫をしています。

「〇〇を持ってこないと一緒に遊ばない」「新しい玩具じゃないから△△の役」等、持参する玩具によって人間関係に影響がありそうな場合には、注意して観察し、必要に応じて介入していきます。より最新のもの、より高額な物がもてはやされ、それが友人関係の優劣となるような価値観が生まれないようにしてまいります。ご心配なことは是非お知らせ下さい。

③紛失・破損

持って行った玩具が壊れてしまう。

失くす。

⇒借りた玩具は大切に使うと言うことは園で子どもと話をしていきますが、悪気なく壊してしまうということもある年齢です。ご家庭でも持参前にお子さんと「こんなことが起きるかもしれない」と言うことを話して頂けると良いと思います。「壊れるのが嫌だから持って行かない」も一つの選択肢です。これも親子での対話の機会にさせていただければと思います。

お迎えにいらした際に玩具を探して帰るのに時間がかかる…ということが続くような場合は遠慮なくご相談下さい。園とご家庭とでできる工夫を考えてまいります。

